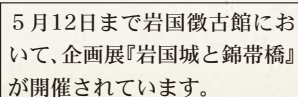


岩国城① 関ヶ原の戦い

天下を統一した豊臣秀吉の死後、政治的に大きな影響力を持ち始めた徳川家康と、その勢いを止めようとする石田三成などの対立が表面化しました。そして慶長5（1600）年、家康（東軍）と三成（西軍）を中心とした関ヶ原の戦いが起こることとなります。このとき、五大老の一人として中国地方を支配していた毛利輝元は、石田三成

慶長5年9月15日、関ヶ原の戦いは幕を開け、南宮山なんくうざんの毛利軍は動かないまま、西軍の小早川秀秋ひであきなどが東軍へ寝返ったこともあり、東軍の勝利で幕を閉じました。しかしながら、毛利軍は参戦しないという約束を守ったにもかかわらず、輝元が名目上とはいえ西軍の総大将であつたことなどを理由に徳川家康によつて領国の保障は無効とされてしまいました。毛利氏は断絶こそ免れたものの、周防国すおうのくにと長門国ながとくに（現在の山口県）29万8480石余に減封げんほうされることとなつたのです。



2013.4.15